

研修報告書 No. 4

〈県外在住医師から見た高知の地域医療の状況〉

高知県の地域医療は、都市部と比べると特有の課題を抱えていると感じました。やはり高齢化に伴う医療需要の増加が顕著であり、通院困難な状況や介護等の社会背景を考慮した医療の必要性が高いと感じました。また、都市部と比較して技能実習生が来院される頻度が高く、日本語話者でない方とのコミュニケーションツールを強化する必要があると思います。さらに、都市部では外来で担当する疾患が診療科ごとに細分化されている一方で、一つの診療科が幅広く疾患に対応する必要性が高いと感じました。

〈研修内容に対する意見〉

今回の研修では、大学病院ではなかなか経験できない common disease への理解を深めることができました。急性上気道炎症や虫垂炎等、日常的に頻繁に見られる疾患に対する診断と治療のアプローチを学ぶ機会が多くありました。今回研修を行った病院では、地域特有の病状や生活背景を考慮した包括的な医療提供が行われていることが印象的で、私も主治医として担当することで実践的な研修ができたと思います。都市部の医療機関とは異なる視点からの医療提供の重要性を実感しました。

また、ある先生が信頼関係を築くために方言を意識的に使っていると言っていたことが印象的でした。接遇としては患者さんにはかならず敬語を使いましょうと習いますが、信頼されている先生方が地域に根ざした言葉を使うことでより患者さんとの信頼関係をより深めている状況を目の当たりにし、今後の患者さんとのコミュニケーションを向上させるうえで大変勉強になりました。

さらに、ムカデやヘビの咬傷は都市部の当直や救急外来では経験できない症例であり、非常に勉強になりました。都市部では外来で担当する疾患が診療科ごとに細分化されている一方で、今回の研修では1人の医師が担当する疾患領域の幅広さが印象的でした。具体的には、外科では頭頸部から腹部の悪性腫瘍のフォローアップに加え、ムカデやヘビの咬傷や切開が必要な皮膚疾患まで担当されていました。今後の地方での医療需要を考慮すると、幅広い対応を学ぶことの必要性を強く感じました。

〈今回の臨床研修で得たと考えられるもの〉

今回の臨床研修で得た最大の成果は、地域医療における common disease の診療能力の向上と、患者さんとのコミュニケーションの重要性を学んだことです。地域医療のみならずどの病院でも頻繁に遭遇する疾患は迅速かつ的確な対応が求められる一方で、大学病院では専門的な疾患に焦点が当たりがちですが、今回の研修では地域の医療ニーズに即した診療

能力を養うことができました。また、患者さんとのコミュニケーションを通じて、患者さんの生活背景やニーズを理解し、より個別化された医療を提供する重要性を再認識しました。さらに、今回の経験を通じて、地域医療の現場での医療チームの連携の大切さも学びました。医療スタッフとの密なコミュニケーションを通じて、患者さんに対する総合的なケアを提供することができ、医療チームとしての一体感を強く感じました。これらの経験は、今後の医療活動において大いに役立つと考えています。

このように、今回の地域医療研修は、非常に貴重な研修の場となりました。地域医療の重要性を再認識し、今後の医師としてのキャリアにおいてもこの経験を活かしていきたいと考えています。